



学校だより

きも 気持ちのよいあいさつ

 ふくこうちょう さいとう ただお
 副校長 齋藤 忠雄

大寒を過ぎて、立春を待ちわびているところですが、寒さが厳しい日が続いております。

人権・国際委員会の5、6年生が児童が登校してくる各門や職員室前に立ち、朝の挨拶運動をする姿があります。私も時々、一緒に門に立つのですが、本校に着任してから思っていた事のひとつが立野小の児童は挨拶がしっかりと身に付いているということです。これは、学校の教育によるものだけではなく、ご家庭の躾や挨拶に対する考え方によるところが大きいと思います。ご家庭の皆様本当に感謝です。

挨拶と言えば、私には少年時代の苦い思い出があります。私が小学4年生、当時所属していた野球チームの試合に父が応援に来た時のことです。試合で活躍することができた私は父が褒めてくれると予想して意気揚々と帰宅しました。すると待っていた父は、烈火のごとく私に叱りつけてきたのです。「お前の試合での活躍なんて関係ない。監督に目も合わせずにする「おはようございます」、ノックを受けた後の「ありがとうございます」の適当さ、その態度にあきれて途中で帰ってきた。あの心がこもっていない挨拶はなんだ！」と父から説教されたのです。振り返ってみると確かに高学年になり、少しばかり上達していた気になっていた自分がいました。それ以来、この歳になるまで私もできるだけ気持ちのよい挨拶をしようと心掛けています。

「挨拶は、魔法の言葉」とは、昔から言われていることです。挨拶は仲良くなるための最初の一步。挨拶をするだけで「話しかけやすい人だな」と声をかけるハードルが下がり、その後のコミュニケーションにつながります。また、挨拶をされることによって、「自分の存在を認められている」「私に気付いてくれたんだ」と嬉しくなるものです。気持ちよく挨拶する人に出会うと、それだけで「この人はいい人だ！」と思うものです。感謝の思いも「ありがとうございます」と、声に出したほうがきっと相手に伝わるのではないのでしょうか。

昔に比べて人間関係が希薄になったと言われる現代社会において、挨拶は人と人がふれあい、心を温めることのできる大事な手段だと思います。立野小学校の子どもたちと挨拶を大切にして学校生活をよりよいものにしていきたいと思います。

明日から2月です。まだ寒い時期も続きます。体調面に気を付けると共に、あと2ヶ月、子ども同士のよりよい関わりを大切にしながら、学年のまとめの時期に入っていきたいと考えています。

保護者・地域の皆様には、引き続きお声がけをはじめ、ご理解・ご協力をお願いいたします。